

令和元年度 電気・情報関係学会 九州支部連合大会報告のご紹介

工学研究院電気電子工学研究系 准教授 小迫 雅裕
(電電H9)



て最初に発表参加する大会でもある
ことが多く、一種の登竜門となつて
いる。ここでは、その大会が本学・
戸畑キャンパスで開催された報告内
容を紹介したい。

電気・情報関係学会九州支部連合
大会が2019年9月27日(金)・28
日(土)の2日間にわたり本学・戸畑
キャンパスで開催された。本大会は、
電気電子・情報技術に関する学術分
野を扱う電気学会、電子情報通信学
会、情報処理学会、照明学会、電気
設備学会、映像情報メディア学会、
日本音響学会それぞれの九州支部と、
IEEE Fukuoka Sectionの主催によつ
て毎年開催されている。それぞれの
学会に所属する研究者および学生が
集まり、研究発表を通して自身の研
究の位置付けや状況を知り、今後の
指針を得ることに留まらず、隣接ま
たは異分野の研究者や学生と交流も
深めることができる貴重な機会と
なっている。また、多くの学生にとつ

本大会の主催は電気・情報関係学
会九州支部連合大会委員会、本学に
は共催、北九州市および公益財団法
人北九州観光コンベンション協会に
は協賛いただいた。セッション数は
28、講演者数は目標値である500件を
突破して508件、また、聴講者も含め
た参加者総数も4年ぶりに750人を超
えた。なお、508件中、本学からの発
表は約150件あり、地の利を活かして、
最も発表件数が多い大学となった。
百周年中村記念館の1Fで受付、企
業展示、懇親会を行い、2F多目的
ホールでは特別講演、ポスターセッ
ションを行った。普段は授業で用い
ている13教室を一般講演会場として
活用した。

表1に部門別の講演申込件数をま
とめて示す。最近活発な分野や統廃
合したセッションは申込件数が比較

的多い。国際セッションとして英語
での発表セッションがあり、国内に
在籍している留学生や、国際会議の
前哨戦として研鑽する日本人学生も
多数見られる。このセッションだけ
は、論文原稿執筆(1頁)と発表も
全て英語で行われる。

表1 第72回電気・情報関係学会九州支部連合大会の部門別講演申込件数

No.	部 門 名	件数	No.	部 門 名	件数
1	回路システム・情報理論	2	15	情報通信	15
2	放電・プラズマ・高電圧・パルスパワー	42	16	計測	21
3	電気電子材料	16	17	制御	10
4	マグネティックス	25	18	生体工学	25
5	電気機器(＋旧照明)	11	19	情報基礎論	9
6	パワーエレクトロニクス	34	20	計算機ハードウェア・ソフトウェア	11
7	リニアモーター・磁気浮上および電気鉄道	4	21	パターン理解	16
8	電力技術・エネルギー(＋旧エネルギー・環境)	38	22	計算機応用	21
9	音響・音声	5	23	人工知能(＋旧自然言語処理)	18
10	電磁波・アンテナ	27	24	教育	4
11	光および量子エレクトロニクス	11	25	国際セッション(電磁波・アンテナ)	13
12	半導体・電子デバイス	17	26	国際セッション(計算機科学・情報技術)	17
13	電子回路	27	27	国際セッション(フォトリソ)	5
14	テレビジョン・画像	9	28	国際セッション(電気エネルギーシステム工学)	22

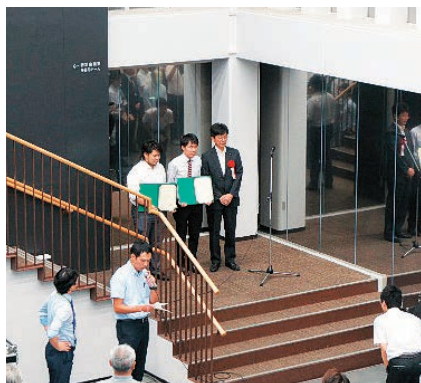
本大会は、電気関係学会8学会が
持ち回りで主担当を努めており、2
019年度は電気学会九州支部が担



ポスターセッションの様子

当した。電気学会九州支部長の九州
電力株式会社・山科秀之氏を大会委
員長とし、開催校の本学・大塚信也
准教授を大会副委員長とし、開催校
である本学と電気関係2学会の幹事
からなる大会委員会が組織された。
また、開催校である本学・電気電子
工学科34名の全教員が開催地実行委
員会に就任し、その中で本学・三谷
康範教授を実行委員長とし、筆者は
実行副委員長を仰せつかった。実行
委員のサポートとして、約50名の本
学学生に協力いただいた。
参加者数増加を狙い、本大会から
ポスターセッションを新たに始めた。

46件全て学生からのポスター発表が
百周年中村記念館・多目的ホールで
行われ、厳正なる審査の末、5名を
優秀ポスター賞として懇親会時に表
彰した。なお、その5名中4名は本



優秀ポスター賞の表彰式



乾杯

懇親会の様子

学学生だったが、46件中31件が本学
学生からの発表だったので、比率的
には悪くないと思われる。

一般講演はほぼ学生からの発表で
ある。非常に緊張して途中で発表が
途切れる学生もいれば、かなり熟練
に達している学生もあり、千差万別
だった。多くの学生にとっては、同
じ九州内の他大学の先生や企業の方
々から多くの質問やコメントがい
ただける大変良い機会となった。

特別講演では、株式会社野村総合
研究所の近野 泰氏に、「チャンスか、
脅威か?」100年に一度の産業革命
をどう活かすか」という演題でご
講演いただいた。同氏は本学出身者
でもあり、大変わかりやすく熱心に
講演された。本講演は大会に参加さ
れていない方も聴講可能であったの
で、一般参加者も多く集まった。

本大会の最近10年ほどは講演申込
件数が低下傾向だったが、本年に関
してはV字回復した。地理的要因に
加えて、新企画のポスターセッション、
企業協賛展示・講演、企画セッ
ション、特別講演などを実施した効
果だと考えている。本大会を通じ、
産学官交流の加速、学生の研究活動
の推進に少しでも貢献できたのであ
れば実行委員会として本望である。



一般講演の様子

本年度も実行委員の方々のご尽力に
より大変盛大な大会となった。また、
多くの関係機関・企業に多大なるご
支援を賜った。ここに関係者の全て
の皆様感謝の意を述べたい。



特別講演の様子と講師